



2019年11月8日

各 位

会 社 名 岡本硝子株式会社  
代表者名 代表取締役会長 岡本 毅  
(JASDAQ・コード7746)  
問合せ先 法務・知財部長 兼 IR 課長 風間 卓  
電 話 04-7137-3111

2020年3月期第2四半期業績予想と  
実績値との差異及び通期予想の修正に関するお知らせ

当社は、2019年5月15日に公表いたしました2020年3月期第2四半期連結累計期間の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。また、最近の業績の動向等を踏まえ、2019年5月15日に公表いたしました2020年3月期通期の連結業績予想につきましても修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2020年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値の差異  
(2019年4月1日～2019年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 2,980	百万円 10	百万円 △60	百万円 △25	円 銭 △1.08
実 績 値 (B)	2,833	89	9	32	1.41
増 減 額 (B-A)	△147	79	69	57	
増 減 率 (%)	△4.9	790.0	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	3,190	190	179	100	4.41

実績値との差異が生じた理由

ガラス容器への加飾蒸着の売上高は予想を上回り、機能性薄膜・ガラス事業は好調でした。その一方で、プロジェクター市場は当初の想定より停滞しており、フライアイレンズと反射鏡の売上高は予想を下回りましたが、設備の予防保全の徹底により修繕費を削減することで、光学事業の収益確保を図りました。これらにより営業利益は予想を79百万円上回り、経常利益は予想を69百万円上回りました。

このほかに、政策保有株式の縮減を進めたことで特別利益として投資有価証券売却益37百万円が発生し、親会社株主に帰属する四半期純利益は予想を57百万円上回りました。

2. 2020年3月期通期連結業績予想の修正

(2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 6,270	百万円 260	百万円 125	百万円 115	円 銭 4.97
今回予想 (B)	5,800	160	10	10	0.43
増減額 (B-A)	△470	△100	△115	△105	
増減率 (%)	△7.5	△38.5	△92.0	△91.3	
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	6,078	331	271	186	8.21

修正の理由

ガラス容器への加飾蒸着の売上高は、引き続き好調が見込まれますが、プロジェクター市場の停滞のため、フライアイレンズと反射鏡の売上高は、当初の想定を下回ることが予想されます。このため、売上高は計画比 470 百万円減収の 5,800 百万円となる見込みです。

第3四半期以降も、引き続きコスト削減を進めますが、営業利益は計画比 100 百万円減益の 160 百万円、経常利益は計画比 115 百万円減益の 10 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は計画比 105 百万円減益の 10 百万円となる見込みです。

以上